

令和6（2024）年度第2回総合教育会議 概要

- 1日時
- 令和7（2025）年1月16日（木） 午前10時56分～午前11時29分
- 2会場
- 柏崎市役所4階 4－3・4－4会議室
- 3出席者
- 櫻井市長、近藤教育長、阿部教育委員、米谷教育委員、飯塚教育委員、霜田教育委員
事務局（井比総合企画部長、金子総務課長、本間教育部長、田辺教育総務課長、矢沢学校教育課長、山之内学校教育課主幹、布施教育総務課長代理、茨城教育総務課総務企画係長）
- 4傍聴者
- 0人
- 5報道
- 新潟日報社、柏崎日報、朝日新聞社
- 6概要

(1) 開会挨拶

（市長） 本日は大変お忙しい中、令和6（2024）年度第2回総合教育会議にお集まりいただきありがとうございます。数年前の高柳小学校と鯖石小学校との統合を含め、この統合の問題は地域の方々はもちろん、何よりも子ども達、そして保護者の方々にとっても非常に関心の高いことであります。私たちの目的は一つであり、少しでも今よりも良い教育環境で児童生徒が教育を受けることができるようにすることです。皆様からは、忌憚のない御意見をお聞かせいただければと思います。

(2) 議事

柏崎市立東中学校と第五中学校の統合について

柏崎市立東中学校と第五中学校の統合について了解を得た。

〔説明・意見交換〕

（事務局） 東中学校と第五中学校の統合については、令和3（2021）年12月に柏崎市立小・中学校学区再編方針を策定しました。柏崎市立小・中学校学区再編方針において、令和6（2024）年度に統合させていただく案を示させていただき、令和4（2022）年4月から10月にかけて学区等審議会から、統合案の是非を御審議いただくとともに、両校の保護者や地区の校区住民の皆様との意見交換等を開催させていただきながら検討を行ってきました。結果として、東中学校と第五中学校の令和6（2024）年度の統合は見送り、その後の統合については、第五中学校の生徒の推移、時期を見ながら再検討すべきとの学区等審議会の答申、保護者や校区住民の皆様からの賛成反対にとどまらない多種多様な御意見などを踏まえ、市長と教育委員の協議の場である総合教育会議に諮らせていただいた上で、令和6（2024）年度の統合は見送ることを令和4（2022）年11月に決定しました。ただし、学区等審議会では答申において、「第五中学校の生徒数が見込みを下回る可能性もあり、状況の変化によっては、改めて統合を検討する必要があると思われる」としておりました。教育委員会でも、令和7（2025）年度には第五中学校の生徒数が20人程度に減少すると想定をしていたことから、学校統合を含め、子ども達にとって望ましい教育環境の提

供のための協議を継続するとともに、全校生徒数が20人台で推移することが複数年にわたり見込まれる場合は、学校統合の論議を再開するとし、保護者や校区住民の皆様にも周知させていただきました。また、令和5（2023）年6月には、鯖石小学校、高柳小学校、第五中学校に在学又は第五中学校区に居住する未就学のお子さんの保護者を対象に、第五中学校の今後の在り方に関するアンケートを実施させていただくとともに、同年9月にはアンケート結果の報告会を開催し、第五中学校を取り巻く状況の検証を継続してきました。加えて、令和6（2024）年6月に作成いたしました市内小・中学校の児童生徒数の推移予測において、第五中学校は令和6（2024）年度以降全校生徒が20人台で推移することが複数年にわたり見込まれることから、東中学校との統合論議を再開させていただくことを決定させていただくとともに、保護者に最新の生徒数の推移予測と統合論議の再開を示しながら、改めて市立第五中学校の今後の在り方に関するアンケートを実施させていただきました。あわせて、9月29日にはアンケートを送付させていただいた保護者及び第五中学校区住民の皆様を対象に、集計結果の報告を兼ねた論議再開後1回目となる説明会、12月1日には、統合時期の提案を兼ねた2回目の説明会を開催させていただき、保護者や地域の皆様と学校統合の是非にとどまらない様々な意見交換を重ねてきました。しかしながら、令和6（2024）年9月に示させていただいた本市の中学校における統合検討開始基準を既に下回っている第五中学校生徒の教育環境に鑑みても、本市の将来を担う子ども達へ、より望ましい教育環境を提供するためには、一定数の生徒の確保が必要であり、無理のない範囲でなるべく早く実現させたいとの思いから、東中学校と第五中学校の統合計画を資料1のとおりと考えています。（※事務局が別添資料「東中学校と第五中学校の統合計画の確定について（案）」により説明）

- （市長）
- 今の説明に関して、御質問や御意見を伺います。
- （阿部）
- 議題について一言で言えば、「該当する地域の皆様方に御理解を賜りたい」に尽きると思います。昨日の柏崎日報の一面に「人口減少が予想以上に」という記事が掲載され、柏崎に限らないことですが、人口減少が急速かつ非常に大きいことで、やむを得ないという形になるかと思います。想定できる課題等は、できる限り市役所の方で解消に向けた動きをしていただき、新たな問題は具体的に動くから出てくると思いますので、そのことについても全力でサポートさせていただきながら、ということをして、「御理解を賜りたい」ということです。
- （飯塚）
- 冒頭で市長からありました目的や教育総務課長から説明のありました文面について賛同させていただきたいと思います。一方で、五中が空いた後の利用について、まだ確定でない聞いておりますが、過去のことはもう致し方ないですが、一市民としても非常に建物がもったいないと思います。どのような経緯で学校が建てられたかは分かりませんが、同じ轍を踏まないと言いますか、まちの経営視点ということからも、この学校に関わらず非常に大事なことだと思います。今後、人口減少が急速にということもありますので、その先を見据えた適切な計画を改めて今回を機に考えていく必要があると思います。

(米谷) 東中と五中の統合の件について、資料３の生徒数の推移の予測からも、長期にわたり増加傾向はなく、市立の中学校の基本的な在り方として統合の方で進めて良いと考えます。中学生の成長段階では、ある程度多くの人数の仲間と関わり合いながら学校生活を送り、他者との関係の中で経験を積んでいくことは将来のために大切と考えるところが大きいです。昨今、価値観の揺らぎが大きいと感じており、この中で、中学生が自分の実体験をベースにして、人との関わりについて考えていくことがとても大切ではないかと思います。小学校の段階では一人一人丁寧に見ていくという方法も一方であると思いますが、中学生の成長段階では、基本的に仲間の中で学校生活を送っていくことを進めて良いと考えます。

３点ほど気をつけて丁寧に進めていただきたいことがあります。１点目は、大人数の中での学校生活に苦しさを感じる生徒、そしてその保護者の方から寄せられている中学生の小規模な学習環境への期待にどう対応するかです。これは説明会の中でも答弁いただいておりますが、ふれあいルームの移行による五中の学校施設の利用も含め、通常の学校での職員の増員、それから校内での組織的な対応というような方法など、こういった学習環境への期待に応えていける丁寧な対応をお願いしたいと思います。２点目は、通学時間の長さです。これは私も保護者として経験していますので、一番の心配事だと共感するところです。バスの安全管理、そして毎日の通学ですので、運転手との連絡など具体的に挙がってくる懸案の利便性を良くしていくよう細かい対応が必要だと思います。３点目は五中学校区の文化伝統の活用への支援についてです。この点が、都会の学校が求めてもなかなかできない部分であり、柏崎市が大切に考えている豊かな教育に生きてくるのではないかと学校訪問を通じて感じております。身体を使って実際に自分が経験して学習することを、地域の方々の協力を得ながら今後も進めていくことは、生徒の貴重な経験になると思います。

また、私の住む地域に全戸配布や回覧されている学校だよりで、校長先生の教育方針、そして地域の子どもの活躍を読む機会があります。大人にもワクワク感があり、学校に協力したい気持ちになります。統合後も全地域に学校だよりを届けて、支援をいただけるよう、こういった細かい点も大切ではないかと考えております。

(霜田) 教育総務課の説明データと、冒頭市長から挨拶の中でありました、今より良い環境で教育を受けることの目的に即すれば、東中学校と第五中学校の統合は必要であると考えました。あと一つ、今後、地域コミュニティというところは並行して、検討していただけたらと思います。消滅可能性自治体という言葉がありますが、指標が２０歳から３９歳の女性の人口が判定基準になっています。つまり、子どもを産んで育てたいと思う地域になれば消滅する可能性が高くなるという考え方になりますが、コンパクトな枠組みで考えれば、中学校が廃校になった地域が消滅しないためにも、地域コミュニティの充実という観点で地域の方に寄り添いながらサポートし、子育てしやすい地域として成り立つ観点で、地域コミュニティの充実という形で住民に寄り添ってサポートしていくことは、今後も並行して検討していただけたらと思います。教育としては、地域は学校から少し遠いかもしれないが、そ

れとは別に、コミュニティとしては成り立つというところで進めていけたら良いのではないかというのが考えであります。

(教育長) 前回、学区等審議会の答申を受けまして、時期早尚ということで、見送らざるを得なかった五中と東中の統合ですが、今度は学区等審議会の答申の中にありました要望等に沿って肅々と進めたいと考えているところであります。統合の必要性は、今までも様々な場所において説明してまいりました。今ほど様々な御意見等頂戴しましたので、それらを踏まえながら、例えば子ども一人一人に応じた教育、進め方、それから各中学校区の文化伝統の今後への引き継ぎ方、長時間通学に関わる子ども達への負担の軽減について図れるかなど、その他にも様々なあるかと思いますが、それらを考慮しながら、保護者、そして地域の皆さんの理解を図り、最終的には子ども達にも訴えてまいりたいと考えております。いろいろ御意見をいただきありがとうございました。

(市長) 「柏崎市立東中学校と第五中学校の統合について」を皆様から御了解いただけるということでよろしいか。

(委員) 異議なし。

(市長) 以上で議事を終了いたします。教育委員の皆様にご感謝申し上げます。

(3) 閉会